

第一回 国土のモニタリング研究会議事概要

1. 日時 平成 14 年 7 月 9 日（火）17:30～19:30
2. 場所 3 号館 4 階特別会議室
3. 出席委員 森地座長、石田委員、城所委員、佐藤委員、瀬古委員、恒川委員、中村委員

4. 議題

- (1)国土のモニタリング研究会の進め方について
- (2)今後の国土のモニタリング計画について

5. 主な意見

(1)国土のモニタリング研究会の進め方について

- ・従来の全総のフォローアップでなく、今回改めて「モニタリング」をとりあげる意義を明確にすべき。その中で、情報のやり取り等の面において、自治体とどう関わるのかという視点を取り入れるべき。
- ・我が国にデータベースとしてどんなものがどれだけあるのか。
- ・モニタリングのプロセスについて議論すべき。特に、モニター項目の決定プロセスはパブコメを取り入れる等オープンにすべき。
- ・国土計画の目標の達成度を測る目標管理型のシステムのあり方は検討しないのか。
- ・国連開発計画（UNDP）、OECDの作成した指標のような国際的に比較できる指標を作るべき。
- ・どのようなシステムとしていくかを論じるためにも、まず、この研究会で国土のモニタリングの原案を作っていくべき。

(2)今後の国土のモニタリング計画について

（全体構成について）

- ・「現在何が足りないのか」という視点よりも、良いところを伸ばしていくという視点で指標を選ぶべき。
- ・必要であっても、現実的に統計がとりにくい場合どうするのか。必ずしも全国一斉にとるのではなく、ケーススタディ的に典型的な例を示してもよい。
- ・適切な空間単位、表現方法をどうするか、課題発見に使えるモニタリングシステムの要件という観点からの議論も必要。
- ・政策手段とのつながりまでもモニタリングしていくところまで手を広げすぎずに、議論の範囲を絞った方がよい。
- ・各省庁もそれぞれの所管分野で、データを取り目的を持って分析しているが、ゾーニングが違う等よく活用できないことがある。国土のモニタリングで全てのデータを網羅しなくとも、リンクできればよい。面白さ、分かり易さという観点も必要。
- ・モニタリング項目については、新たな国土計画策定に向けた課題の整理、

現計画のフォロー、計画に対する国民の理解増進の3つの観点から、項目を体系立てて整理してほしい。

(個別の項目について)

- ・ これまでは地域を均一的な指標で見えてきたが、これからは多様性や、それぞれの豊かさを見る指標づくりをするべき。
- ・ 施設の数よりも利用状況等のデータをとるなどサービスの質に注目した指標の工夫が必要。
- ・ 「人」の意識などの主観的な部分のモニタリングも大切。
- ・ 農業関連の指標は、農地の問題と担い手の問題の2つの方向があると思われる。
- ・ 観光関連の指標についても検討してほしい。
- ・ アメニティや都市の魅力に関して、これまで国土計画があまり扱ってこなかった「民」の部分をどう扱うかが課題。